

第25回「日韓高校生交流キャンプ」参加生徒の感想文 ③

「高校生交流キャンプの感想文」

岡 笑夢

広島県立広島高等学校 1年



初めての体験であり絶対に一生忘れることの出来ない最高の思い出。そんな思い出を作れたのは「第25回日韓高校生交流キャンプ」に参加したからだ。学校の掲示板で見つけたキャンプのお知らせ。地元の広島で開催するのなら参加してみよう。と少し軽い気持ちで応募を決意したが、歴代の先輩たちの感想や体験談を聞いているとだんだんとキャンが楽しみになっていった。

しかし、私は病気になってしまった関係で初日からキャンプに参加することができなかった。2日目の夜からの参加になった。本当に不安しか無かった。何ヶ月も前から楽しみでたまらなかったキャンプなのに仲良くなれるのか言葉は通じるのかなどとマイナスな事しか考えなくなっていた。

でも、実際に会ってみるとチームのみんなが温かく私を迎えてくれて、日韓関係なく一人一人と沢山喋った。そのおかげで私はかけがえのない時間をキャンプで過ごせた。今までで1番充実した時間だったと思う。

私は「飲食サービス」のチームだった。何も無い白紙の状態から事業案を考え始めた。日本と韓国では食べるものも考え方も違う点が多いのですぐには案はまとまらなかった。でも一人一人が一生懸命相手に自分の意見をぶつけてより良いものを作ろうと必死になった。そんな感じはずっと喋っていると不思議と案がまとまってきた。私達の部屋は日本語、韓国語、時には英語まで飛び交う日常では考えられない空間になっていた。最初はぎこちなさしかなかったが慣れてくると話が弾んでいった。

案がまとまっていっても話していくうちに改善案が出てきて発表の前日は30分か眠れなかった。しんどかった。でも次の日みんなの前で発表をして終わったあとにみんなでハイタッチした時、しんどさは吹っ飛んだ。結果は残せなかった。でもどのチームよりもたくさん話し合い全力を出し切れた作品だと私は言いきれ。その点では圧倒的に私たちが一等賞だった。

その夜、私たちは沢山話して遊んだ。悔いの残らないように…。そこでしたトランプは本当に面白かった。お互い言葉が通じないはずなのに笑顔という表情ひとつで意思疎通ができた。笑顔には言葉の壁を超える大きな力があると感じた。私たちは夜中最後の最後までずっと笑っていた。

最終日の朝、ご飯を食べ終わり韓国チームが帰る時、私たちは泣いてしまった。私は最後まで笑顔でバイバイしようと思っていたが、今までの記憶が鮮明に思い出され気づいたら涙が出ていた。涙を流しながら私たちは来年の夏に必ず会おうと約束した。そこでついに別れの時がきた。韓国チームがバスに乗ってからもずっと手を振りながら泣いていた。

家に帰り日本語だけの生活になるとなにか寂しく感じた。あの賑やかな空間に戻り

たい…そう思った。

私はこのキャンプを通じて学校では学べない大事なことに気づくことができた。それは言葉の力の大きさと国を超えた友情の持つ力の凄さだ。これは私の人生で大きな意味を持ち、これからの私の人生を変えていくと思う。今回のキャンプはかけがえない思い出、財産になると思う。

最後に。

メンターのダビン。私の分かりにくい日本語を聞いてくれてありがとう。ダビンのおかげで韓国のチームメイトと沢山喋れたよ。ありがとう。

チーム8のみんな。かけがえない思い出や時間をありがとう。また来年の夏に…。

「人生最高の5日間」

金 ミヌ (キム・ミヌ)
鳥山高等学校 3年



幼い頃から日本に関心が高かったので、今回のキャンプに申し込んだ。

私は日本語が話せるので、他の参加者よりは緊張していなかったかもしれないが、

日本人と直接会って話をするのは、今回が初めてだったので、やはりまったく緊張していなかったとは言えない。

期待で胸を膨らませながら日本へ出発した。広島空港に到着し、バスで出会ったユウキ君とあれこれ話をしているうちにバスは会場に着き、早速オリエンテーションが始まった。

オリエンテーションの後、自己紹介をし合ったり、チームメンバーの紹介を載せるチームマガジンを作ったりしながら、日本のメンバーとも韓国のメンバーとも徐々に打ち解けていった。

2日目、訪問した 広島平和記念資料館でみた黒い雨は相当印象深かった。原爆が落とされ、蒸発した水に放射能が混ざって黒い雨として降ってきたものだが、耐えられない暑さに死にそうになった人々は、それが汚染されていることを知りながらも、飲まざるを得なかったと聞いた。あの時のあの人たちの苦しみは想像を絶するものだったろう。哀悼の時間をもった。

一生に一度は畳の部屋で寝てみたいと思っていたのに、この日韓高校生交流キャンプでその夢が叶った。畳の部屋で寝て、日本料理を満喫して、また日本のゆかたを着てみることもできた。

うちのチームには、ジョウ、アカリ、ヨウホウ、リサ、アイコ、イエニ、ジウオン、ヨンジュン、そして、チェ・ワンホメンター先生という、とても明るく、お互いを尊重し合うメンバーたちで構成されていた。メンター先生は私たちと年の差があまりなく、とても話しやすかった。また、英語が流暢なメンバーが多く、意思疎通に特に問

題はなく、とても仲良く過ごすことができた。

原爆ドームの見学の後、日本経済現場体験としてごみ処理工場を訪問した。広島のごみ処理工場は、その規模がとても大きく、相当の量のごみを集め焼却できると聞いた。集まったゴミを大きなクレーンが焼却炉に運んでいる姿がとても印象的だった。

見学が終わってからは、徹夜でチームメンバーたちと事業アイテムについて話し合った。メンバーたちの奇抜な発想や面白い話がいろいろ聞けて、とても楽しかった。

4日目、事業発表会の日。うちのチームは「RAIN BOWL」という事業名で、集めた雨を浄水し飲用可能な水として貯蓄したり、屋上に太陽光電池を設置し雨が降らないときには電気を集められるマシンを開発し設置する内容の事業について発表した。国籍の違う友達と一緒に何かについて企画し発表できたことに、ものすごい達成感を感じ、嬉しかった。

特技披露の時間に、私は「4MEN」の「baby baby」を熱唱した。歌はあまりうまくなかったろうに、みんなはまるでプロの歌手におくるような反応を見せてくれたので、本当に感動した。それから、両国伝統遊びを体験し、部屋に戻ったけれど、とても名残惜しく、徹夜で話し合っただろうと、みんなに提案した。

全ての日程が終わり、最後の朝を迎えた。部屋から出たくなかった。みんなともっと

一緒に時間を過ごしたい、もっと友情を深めたい、しかしもう時間はない・・・。

みんなと別れて、“気をつけて帰ってね。”ともう一度電話で話し合っ、韓国に帰国した。本当にほんの少しの悔いのない人生最高の経験だった。

今、感想文を書きながら、キャンプで仲良くなったジョウ君と電話で話している。日本の友達と電話で話すほど仲良くなれたのは、すべて日韓高校生交流キャンプのお蔭だ。このキャンプを開催してくださった方たちへもう一度心の底から感謝を申し上げながら、感想文を終わりたいと思う。

「充実の五日間をありがとう！」



久場 芹

昭和薬科大学附属高校 3年

私がこのキャンプに応募したきっかけは韓国人と友達になれたらいいなあという軽い気持ちだったのですが、ここまで韓国人の子と仲良くなれるとは思っていませんでした。とても充実した5日間を過ごすことが出来て、このキャンプに参加して良かったと心から思っています！！

初日の韓国人学生との対面は思ったよりドキドキしました。いざ韓国学生と対面すると覚えてきた簡単な韓国語での自己紹介もあまり出てこなくて、ほとんど韓国語では話すことが出来なくて、すごく不甲斐ない気持ちになりました。名刺交換ゲームでは自分のグループではない学生と話すいい機会になりました。

2日目は午前中に原爆ドーム、広島平和資料館へ行き、原爆の犠牲者の実際の写真を見て胸が痛く、小さな子どもまで犠牲になった事は何となくは知っていたけれど改めて目の当たりにして悲しい気持ちになりました。昔こんなことがあったということのを忘れずに今平和であることに感謝しなければと改めて思いました。

午後は、みんなで広島風お好み焼きを食べた後、私たちチームは中工場というごみ処理施設に見学に行きました。中工場で施設の説明をうけて広島県の環境のために煙突から出る煙を無色にして有害のない物質に変えている当たり前のことではあるけど、街を綺麗に保つためにはたくさんの人の工

夫や努力のお陰だと改めて感じました。

工場見学が終わり、ホテルに戻って、このキャンプのメインである、事業案のアイデアを何にするかの話し合いが始まりました。私たちチームはアイデアはたくさん出るけれどそのアイデアから話が広がって何度もテーマから話がずれたりしてそこまで話し合いを進める事は出来ませんでした。

2 日目の夜はゴールデンベルというクイズ大会をしました。私のペアの子は女の子で日本語も上手くて、韓国語が話せない私は日本語が話せる子がペアで良かったと内心ホッとしました。(笑) 私とペアの子は2 問目で不正解になってしまったけれど敗者復活戦のおかげで私たちは見事勝ち残り復活することができました。そこまで上位にはいかなかったけれど、他のグループの韓国人の子と友達になれたので嬉しかったです!!

ゴールデンベルの後はまたまた事業案についての話し合いをしました。私がアイデア決めるときに1 番大変だったことは、自分の意見に質問されたときにもしっかり答えられるように話をまとめることでした。意見を持っていてもそのことについて深く聞かれて答えられないと意味がないと思います。この話し合いで、中途半端な意見は無意味なものであると改めて感じ勉強になりました。私たちチームの事業案が決定したのは夜の11 時とかでした。無事に決まったときはみんなでホッとしました。

3 日目は一日中事業アイテムをまとめま

した。事業案の発表は、韓国語と日本語で行わなければならない、パワポには日本語と韓国語を入れなければなりませんでした。私は韓国学生のジュニョン君と発表することになっていたのでジュニョン君とパワポの内容が変わっていたら大変なのでまず日本語と韓国語でお互いに下書きをして、それを翻訳して大体の内容があっていたらそのまま打ち込んで、少し違っていたら修正していくというスタイルでした。

難しかったことは翻訳すると直訳になってしまっただけの変な日本語になるのでそこから自然な日本語にすることでした。そこで、自分の語彙力の無さに改めて気が付いてヤバイなと思いました。私のパワーポイント作りは夜中の1 時くらいまでかかりその日はお風呂入ったら気づいたら寝ていました。(笑)

4 日目、発表の日! 私達は4 番目でした。発表は緊張せずすることができたので良かったです。私たちチームは賞を取ることは出来なかったけれど、あんなに苦戦して考えて夜中までみんなで協力して作った事業案ができたと思うので満足です。

4 日目の夜のファイナルフェスティバルはすごい楽しかったです。韓国人が一生懸命日本語で歌っている姿は見ていてなんだか嬉しい気持ちになりました。BTS や、black pink、TWICE の韓国でも日本でも人気の音楽でみんなでワイワイした思い出は今でも鮮明に覚えています。でも、1 番最高だったのは司会の人が歌っていたことです。無茶振りで歌ったはずなのにあんなに上手に

歌っていて私までノリノリになりました。

(笑)

4 日目はみんなで過ごす最後の夜でとっっても楽しかったです。夜は恋バナをしました。やっぱり女子の恋バナは世界共通なんだと思いました。日本と韓国の意外な共通点や違いを知れてすごく面白かったです！キャンプ参加する前は韓国人の子とこんなに打ち解けて恋バナとかまでの話をすることができるとは全く思っていなかったものでとても楽しすぎました！最後の夜だったので眠りたくはなかったけど、前日のレポート作りでみんな疲れていたの、みんな結局2時くらいには寝てしまいました。

次の日の朝は、最後の朝ごはんだったけれど、みんな眠そうでした。(笑)けど、ご飯を食べ終わったら韓国側の出発が迫っていたので、ご飯を急いで食べてみんなで写真を撮りました。そうしているうちに、お別れの時間になってしまいました。私たちのメンターさんは絶対泣かないって言うていたけれど泣いていて、こっちまでもらい泣きしそうになりました。1 番仲良くな

れたソラちゃんとお別れは本当に悲しかったけど、また会えると信じてるので泣きませんでした。韓国人が解散してしまったあと、残った日本人同士のお別れもすごく悲しかったです。

キャンプが終わった今もラインで話したりして、日本の子とは受験が終わったら会えると思うので、すごく楽しみにしています。またいつか、いや、絶対チーム全員で集まったらいいなと思っています。

このキャンプに参加し、ゼロから事業案を考えてそれを発表したり、韓国人の子たちと友達になったり、初めての経験をたくさんすることができました。私はメンバーがメンターさんも合わせて最高の 11 人だったなと心から思います。この経験を自分の糧にして将来の夢のためにこれからも頑張っていきたいと思います！！

五日間は、長いようで短くて、大変なこともたくさんあったけど今思えばそれもいい思い出となっています。5 日間、ありがとうございました！！

